

事務事業評価シート

事業番号	33					
事業名	フィルムコミッション推進事業運営費	局名	環境経済局			
		部名	経済部			
事業開始年度	平成17年	課名	商業観光課			
根拠法令等	なし	課長名	荻野隆			
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施					
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理（委託先又は指定管理者：相模原市産業振興財団）					
	<input type="checkbox"/> 補助金（補助先：）					
	<input type="checkbox"/> その他（）					
事業概要	目的 (何のために)	映画、テレビドラマ、CMなどの映像を通じて、相模原市を広く市内外にPRするとともに、本市の観光振興、地域振興、地域経済の活性化を図る。				
	対象 (誰・何を対象に)	映像制作会社等				
	事業内容 (手段・手法など)	(1)映画製作・ロケ撮影の誘致活動 ①撮影場所の紹介 ②ロケハンの立会い ③ホームページの管理・運営 (2)ロケ撮影に伴う業務 ①撮影許可等の調整 ②現場立会い ③エキストラの登録、手配 ④宿泊施設、弁当業者、機材レンタル業者等の紹介				
	事業の必要性	映画、テレビドラマ、CM等で相模原市の施設、風景等が放送されることは、本市のシティセールスに大きく寄与するものであり、市民の相模原市への愛着心を醸成する意味でも効果的である。 また、撮影が行われることによる直接的な経済効果に加え、放送による広告宣伝効果も見込めるものである。				
コスト			平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
	事業費(直接経費)		12,426 千円	11,875 千円	12,000 千円	
	人件費	正規職員	従事者数	0.2 人	0.2 人	0.2 人
			概算人件費	1,453 千円	1,453 千円	1,453 千円
		嘱託職員・臨時職員等	従事者数	人	人	人
			概算人件費	千円	千円	千円
	人件費 合計		1,453 千円	1,453 千円	1,453 千円	
	総事業費		13,879 千円	13,328 千円	13,453 千円	
市民一人あたりの事業費		0.02 千円	0.02 千円	0.02 千円		

		平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
財源内訳	国・県支出金	千円	千円	千円	
	受益者負担金	千円	千円	千円	
	その他()	千円	千円	千円	
	一般財源	12,426 千円	11,875 千円	12,000 千円	
平成23年度 事業費の 主な内訳 (人件費を除く)	項目			金額	
	相模原フィルム・コミッション事業業務委託料			12,000 千円	
				千円	
				千円	
活動実績1	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	撮影件数	件	95	76	90
単位当たりコスト1	(総事業費/活動指標)	千円	146.1	175.4	149.5
活動実績2	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	直接的経済効果	千円	17,256	13,174	15,000
単位当たりコスト2	(総事業費/活動指標)	千円	0.8	1.0	0.9
成果目標 (現状の成果及び 今後どのようにした いか、定量的な評 価で示す)	平成22年度に撮影件数の減少が見られたものの、問い合わせ件数、撮影件数ともに事業開始当初から堅調に推移している。 また、撮影件数の増加のみではなく、委託費を超える直接的経済効果を得ることを維持していくことも重要である。				
成果実績	成果指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	直接的経済効果割合(対委託費)	%	124.33	98.84	111.50
	1件あたりの経済効果割合	千円	182	173	167
特記事項 (事業の沿革等)	平成23年度は「小惑星探査機はやぶさ」に関連する映画への支援を行うなど、相模原市と深い関わりがある作品への支援を行っている。				
事業の自己評価 (今後の事業の方 向性、課題等)	安定的な撮影件数の確保に努めるとともに良質の作品あるいは相模原市のシティセールスにとって効果が高い(宣伝効果が高い)作品への支援割合を高めていく工夫が必要である。				
評 価	《評価の視点》	・ 必要性 ■ある □ない		・ 有効性 ■ある □ない	
		・ 効率性 ■ある □ない			
	《評価の区分》	□廃止 □民間 □再構築 □見直し □現状維持 ■拡充			
	《評価区分の理由》				
	映画等の撮影問い合わせが年間550件程度寄せられ、その中から90件程度が撮影に結びついている。撮影にあたり、市内の宿泊施設、弁当等の食事、機材レンタル業者等の紹介、エキストラ俳優の手配等も合わせて行っており、撮影に伴う経済効果は高いものがある。 今後、撮影の問い合わせに答えるだけでなく、積極的な売込み等事業の充実を図り、より効果の高いシティセールスに結びつけていく。				
H24年度 予算への反映	H24年度予算額において、事業費12,000千円を15,500千円に増額(増額分について単年度要因調査提出)。 職員定数については現状維持。				
経営評価委員会 による意見	●拡充⇒現状維持 ・シティセールスの観点からも事業の拡充の必要性は認められる。ただし、予算規模は原則として現状維持を前提として、現状での直接的効果、副次的効果及び委託料の妥当性を検証し、その結果を踏まえて拡充の検討を進めていただきたい。				